

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

本校では、令和2年度 全国小学校家庭科研究会 全国大会を実施いたします。その年は、新学習指導要領全面実施の年となります。家庭科のいくつかの授業を研究成果として発表します。そのうちの一つとして内容B「(6) 快適な住まい方」において「みんなで地域を快適に」の学習を行います。児童一人一人が主体的に、地域の人々と関りを大切にし、自分の生活の快適さだけでなく、家族や地域の人々と共に快適に住まうためにどのようにすればよいか考えを深める学習です。この度、勝田映子先生に御紹介いただき、助成を申し込ませていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 学習予定の概要を以下の3点について記入してください。

A 中心となる活動及びC学習の流れ（指導計画）

1. 家庭課題「地域の行事やルール、マナーを調べよう」

地域の行事やルール、マナーについて家の人や地域の人にインタビューをする。

2. 第1時「地域の行事やマナーについて考えよう」

自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心を持ち、その大切さについて理解する。

3. 調査活動「学校の様々な場所や場面での音の大きさを調べよう」

学校で様々な場所について、騒音計を使って音の大きさを調べる。

4. 第2時「音と快適な生活のかかわりについて考えよう」

学校や家庭での生活音について考え、地域の人々と共に生活するための工夫を考える。

B 授業のねらいと特徴

- ・自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもつ（家庭生活への関心・意欲・態度）
- ・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることがわかり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。（家庭生活についての知識・理解）

本題材は、学習指導要領の「A 家族・家庭生活」の「(3) 家庭や地域の人々との関わり」アの(1)に「(6) 快適な住まい方」アを関連付けて学習計画を立てている。

その他特記事項がありましたらお書きください

地域の行事やルール、マナーについて考えることにより、自分の生活が多くの人々と関わって成り立っていることに気付かせたい。また、生活を豊かにする季節の音を大切にしてきた日本人の生活文化に気付かせ、家族や千吉良の人々と共に快適に住まうためには、生活音の発生に配慮する必要があり、様々な生活スタイルを互いに認め合って暮らすためにも地域の人々とのつながりや協力が大切であることを理解させたい。

※複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。

よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

第6学年 家庭科学習指導案

- 1 題材名 『みんなで地域を快適に』
新学習指導要領 内容「A 家族・家庭生活」(3) 家族や地域の人々との関わり
ア(イ) 地域の人々との関わり
「B 衣食住の生活」(6) 快適な住まい方
ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の
大切さや住まい方

2 題材の目標

- ・自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもつ。 (家庭生活への関心・意欲・態度)
- ・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。 (家庭生活についての知識・理解)

3 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
・自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもって いる。			・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。

4 題材設定理由

本題材は、学習指導要領「A家族・家庭生活」の「(3) 家族や地域の人々との関わり」アの(イ)に、「B衣食住の生活」の「(6) 快適な住まい方」アの(ア)を関連付けて学習計画を立てている。

児童を取り巻く社会は、少子高齢化が進み、情報化やグローバル化といった社会変化が加速度的に進展している。複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、主体的に向き合って関わり合い、他者

と協働して問題を解決していくことが求められる。しかしながら、社会構造や環境の変化、都市化や過疎化の進行、住民の地域社会への帰属意識の希薄化、モラルの低下などにより、地域住民同士の交流機会が減少しており、地域社会がかつて担っていた役割が果たされていない現状がある。地域の人々のだれもが自分の住む地域に誇りと愛着を持ち、手を携えて住みよい環境をつくるためには、社会変化に対応して関わり方を工夫する必要があると考える。

児童においても同様に、地域で共に生活している人々との関わりは薄く、地域の人々など多くの人に支えられて生活していることを意識している児童は少ないと思われる。そして、自分の生活が快適であることを優先して、地域の人々に迷惑をかけていることの自覚に乏しい児童もいる。

そこで、社会の変化に対応し、家族や地域の人々との関わりを大切にして、よりよい生活を創り出していく能力の基礎や実践的態度を育成したいと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、地域の行事やルール、マナーについて考えることにより、自分の生活が多くのの人々と関わって成り立っており、自分勝手では成り立たないことに気付かせたい。

また、生活を豊かにする季節の音を大切にしてきた日本の生活文化に気付かせ、「B（6）快適な住まい方ア（ア）」と関連させて、家族や地域の人々と共に快適に住まうためには、生活音の発生に配慮する必要がある、様々な生活スタイルを互いに認め合って暮らすためにも地域の人々とのつながりや協力が大切であることを理解させたい。

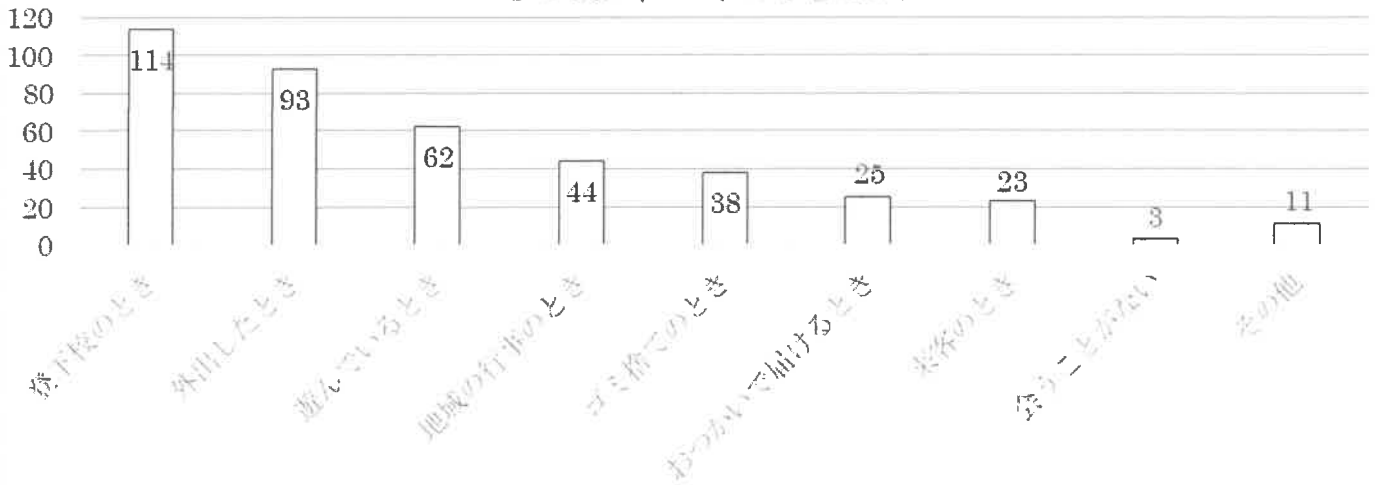
5 児童の実態

5年生の児童は、家庭科の学習に意欲的に取り組み、楽しみながら技能を高めている。徐々に自分の家庭に目を向けるようになり、学んだことを生かした家庭実践では、家庭の協力を得て実践し、できるようになった喜びを感じている。4月から自分のことから家族へと視点を変えながら家庭のことを学んできて、自分だけでなく家族も共に快適に過ごすためにはどうしたらよいかと課題をもって学習してきている。また、夏休みに実践した家庭の仕事を冬休みにも自ら行う子もおり、家庭生活に学んだことを生かそうとしている。

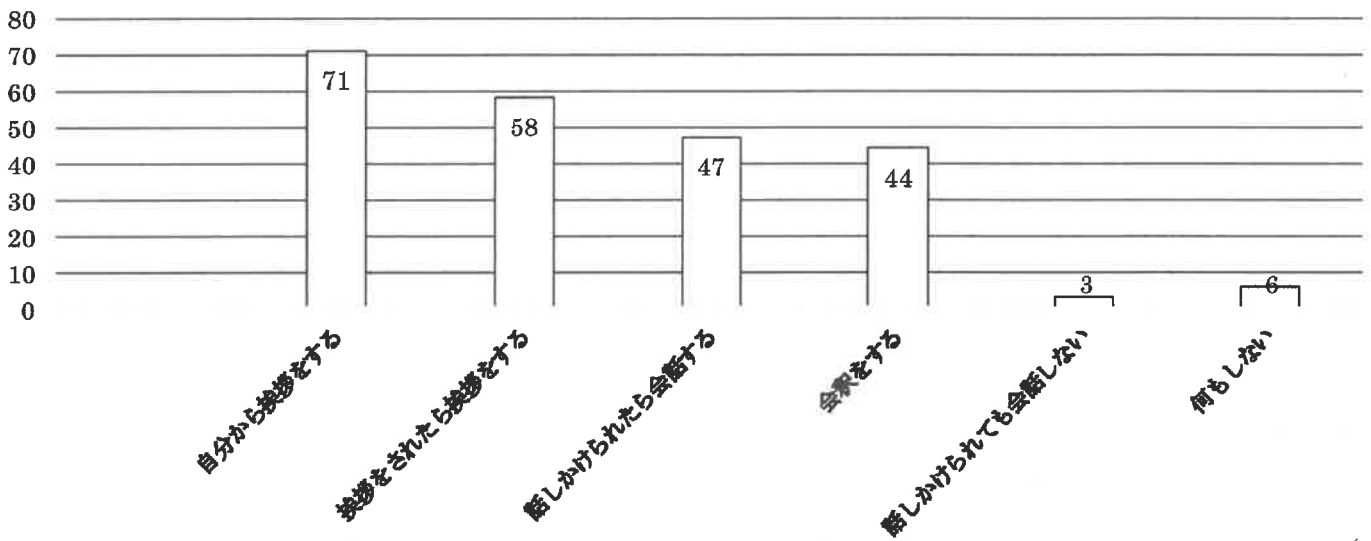
本題材における既習事項はないため、地域との関わりアンケートを集計した。アンケート結果からは、地域の人との関わりとして、ほとんどの児童が会ったときに挨拶をしていることや地域の行事に参加しているなど地域の人々と関わり合っている生活していることが分かり、意識を持ち始めている。しかし、アンケート結果から分かるように、地域の人との関わりは挨拶をされたら挨拶をする、自分たちを見守ってくれていると考えており、受動的なかわりが目立つ。アンケート結果から、自分の生活が地域の人とどのように関わっているか児童に問いかけたとき、地域の方との関係性は自分には関係ないと答えた児童が36名いる。校内・校外において、地域の方に楽しませてもらっている、お世話になっているという実感はあるが、それが自分の快適な生活につながっていると分かっていない児童も見られる。

以上のような児童の実態をふまえ、地域の一員としての存在を実感できるように活動を工夫し、様々な場面で身近な人とよりよく関わるができるように導きたい。また、地域の人と良好な関係を築くことで、お互いに快適な生活を送れることに気付かせ、工夫する楽しさを味わわせたい。

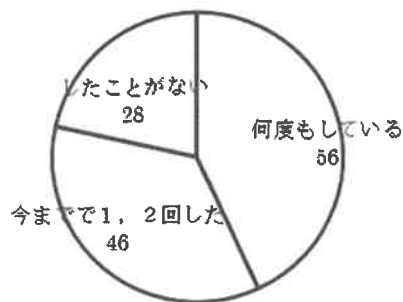
ふだんの生活で地域の人に会うときは、どんなときですか。
(○の数は、いくつでもよい)



地域の人に会ったときは、どうすることが多いですか。



地域で行っている行事に参加していますか。



お会式、神社の祭り、学校の夏まつり・冬まつり
餅つき大会、星空映画祭、防災訓練、ふれあい運動会
バザー、お焚き上げ、保育園・幼稚園のイベント
花火大会、マンションのイベント

快適な家庭生活を送るために、自分と地域の人々とのかかわりについて、どう思いますか。

44

50

26

10

とても関係がある 少し関係がある あまり関係がない 全く関係がない

どうしてそう思いますか。理由を書きましょう。

【関係があると思う理由】

- ・いざというときや災害や犯罪などなにかあったときに助け合うことができるから
- ・地域のひとと仲良くすることで安心して登下校できるから
- ・あいさつすると気持ちがいいから
- ・地域の人みんなのために町を掃除してくれているから
- ・行事で共に行動するから
- ・あいさつはしていないけど、行事で関わり合うから
- ・同じ地域の人だから協力しないといけないから
- ・マンションですれ違ったら挨拶をするから
- ・毎朝起きてから元気よく挨拶すると気持ちが良いから
- ・ごみが散らかっていたら片付けてくれるから
- ・挨拶をすることで様子を気にしてくれるから
- ・お土産を渡したり、仲良くしたり縁が増えるから
- ・回覧板を渡すときやごみ捨てるときに会うから
- ・地域の人に支えてもらっているから
- ・分からないことを教えてくれるから

【関係がないと思う理由】

- ・あまり会話をしたことがないから
- ・関わらなくても十分快適だから
- ・自分から進んで地域の行事に行ったことがないから
- ・家での生活は地域の人に関係ないから
- ・あいさつするだけで会話しないから
- ・地域の人と協力しなくても快適な生活をするすることができるから
- ・全員赤の他人で話す必要がないから
- ・気を使わないといけないから
- ・地域の活動をしないのであまり関係ないから
- ・自分の生活と地域の人々の生活は関係ないから

6 研究主題との関わり

研究主題に迫るために、本題材では研究の視点に応じて下記の手立てにより児童を育成する。

<視点1> 学びの系統性を踏まえた指導計画の工夫（カリキュラムマネジメント）

（手立て①）地域との関わりを学ぶ題材を第5学年・第6学年にそれぞれ分けて、継続的に課題について考えるようにし、道徳科で学習する「B主として人との関わりに関すること〔親切・思いやり〕」「A主として自分自身に関すること〔節度・節制〕」との関連をふまえて、相手の立場に立って考えられるようにし、自分の生活を見直す。

<視点2> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

（手立て②）普段の地域の人との関わり必要性に気付く手立てとして、実際に起こりうる事例を示し、事例を自分のこととして考え、その考えを広げたり、深めたりするための交流活動をする。実生活の内容だからこそ、経験をもとに考えることができ、主体的に学ぶことができる。

（手立て③）実践的・体験的な活動の充実として、実際にどのくらいの音の中で生活しているのかを騒音計で調べる。大きさを理解することで、音が周りの人にどのように感じられているかを知る。そして、他の騒音の基準値と比べたことで普段出している音の大きさに気付くようにし、今後自分はどうしたらよいかを考える。

<視点3> 学びの成果を次の学習へとつなげるための評価の工夫

（手立て④）思考の過程を把握する評価方法として、学習前からの思考や様子が見取れるワークシートを作成する。地域との関わりアンケートでは、「地域との関わりは自分の快適な生活には関係ない」と回答した児童が、学習したことでどのように気持ちが変化したのかを見取るために、ワークシートの振り返りとして今までの自分の生活をふまえて、これからの生活で生かしたいと考えたことを書く欄を設ける。

<視点4> 家庭・地域等との連携の工夫

（手立て⑤）家庭や地域での実践につなげる工夫として、家庭や地域への理解を深めるために家庭や地域の方に地域行事やルール、マナーについてインタビューをする。

7 題材の指導計画と評価計画（2時間扱い）

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
🏠	家庭課題 地域の行事やルール、マナーを調べよう。（家の人や地域の人にインタビュー）				
1	<p>○自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心を持ち、地域の人々との関わり大切さについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の様々な生活について考える。 ・地域の行事やルール、マナーを発表し合う。 ・自分にできることを考える。 	<p>・自分の家庭生活と地域の人々との関わりについて関心をもっている。</p>			<p>・地域の人々との関わり大切さについて理解している。</p>
📝	調査活動 学校の様々な場所や場面での音の大きさを調べよう				
2 本時	<p>○家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生活音について考える。 ・家庭での生活音について考える。 ・地域の人と共に快適に生活するための工夫を考える。 				<p>・家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて理解している。</p>

8 授業の展開

(1) 題材名「みんなで地域を快適に」(全2時間中の第2時間目)

(2) 本時のねらい

○音と生活との関わりが分かり、快適に生活するためには地域の人々とのつながりや協力が大切であることを理解する。
(家庭生活についての知識・理解)

時間	学 習 活 動	・指導上の留意点 ☆評価
見 つ め る 3 分	1 快適な音と不快な音を聴き、学習の流れを把握する。 ・風鈴・ししおどし ・小鳥のさえずり・工事現場の音 ・犬の鳴き声	・季節の音を大切にしてきた日本の生活文化や快適な音により心が落ち着くことに気付くことができるようにする。 ・快適な音と騒音となる不快な生活音があることに気付かせ、普段何気なく聞いている音に対する課題意識をもたせる。 ・学習の流れを示し、見通しをもたせる。
活 動 す る 37 分	音と快適な生活との関わりについて考えよう	
	2 学校での生活音について考える。 ・音調べの結果から気付いたこと。 ・音のレベルと比較する。 ・普段あまり音が気にならないのはなぜか。 ・地域の人はどう思っているか。 3 家庭や地域での生活音について考える。 ・音を出す立場 ・音が聞こえる立場 ・快適、不快と思っている人の違いについて考え、話し合う。 (リコーダーの音、床を走る音)	・2人1組で騒音計を使って数値(dB)を測定し、気付いたことを事前にワークシートに記録させておく。 ・調べた音の大きさから気付いたことを全体で共有できるようにする。 ・音のレベルをグラフに表したものと比較して考えさせ、普段の生活で騒音を発生させていることを実感させる。 ・時間帯や音の大きさ、健康状態等、様々な要因に気付くことができるようにする。 ・音の感じ方は人それぞれであり、自分が気にならない音でも人によっては気になる場合があることに気付かせ、自分が発する音がほかの人にとって不快になっていないか実生活をふまえて考えさせる。 ・パワーポイントで実生活にある音を事例として取り上げ、自分の家庭生活と関連させて考えることができるようにする。 ・様々な生活スタイルをたがいに認め合って暮らすために、日ごろからあいさつを交わすなど近所の人との関わりをもつことの大切さに気付くようにする。
生 か す 5 分	4 本時の学習を振り返る。 ・ワークシートに記入する。 ・発表する。	・これまでの自分の生活や地域の人々との関わりを振り返り、今後の生活に生かすことを記入させる。 ・学習の振り返りを発表し合うことで、自分の生活や地域の人々との関わりが大切であることの理解を深め、これからの実践に生かせるようにする。 ☆音と生活との関わりが分かり、快適に生活するためには地域の人々とのつながりや協力が大切であることを理解している。 <ワークシート、観察、発言> (知識・理解)

(3) 板書計画

1/30(水)みんなで地域を快適に **めあて** 音と快適な生活の関わりについて考えよう

季節の音

生活文化

風鈴

ししおどし

快適な音

不快な音

小鳥のさえずり

工事現場の音

犬の鳴き声

①学校生活

騒音

②家庭生活

- ・音がしていないと感じる時でも 40dB
- ・くらい音が出てる
- ・狭い所や人がいる所は音が大きい

- ・音が周りに聞こえない工夫をする
- ・短時間にする
- ・早朝や夜はさける
- ・音を小さくする

私たち **快適** **不快**

聞き慣れている 集中できない

地域の人 **快適** **不快**

子供が好きだから 昼寝ができない

いつもの音だなあ あの子達かなあ
頑張っているなあ

- ・子供が好きだから
- ・普段挨拶しているから
- ・普段交流しているからどういう人か知っている

1. 普段の生活で地域の人に会うときは、どんな時ですか。(あてはまるものに○を付けましょう)

{	登下校のとき	買物や遊びなどで外出したとき	公園などで遊んでいるとき
	ごみ捨てのとき	家の人のおつかいで届けるとき	地域の行事のとき
	来客のとき	会うことがない	その他 ()

2. 朝、地域の人に会った時は、あいさつを交わしていますか。

はい いいえ はいの人はどちらからですか。 _____

3. 地域で行っている行事に参加していますか。

何度もしている 今までで1, 2回した したことがない

したことがある人はどんな行事ですか。

{		}
---	--	---

4. 快適な家庭生活を送るために、自分と地域の人々とのかかわりについて、どう思いますか。
理由も合わせて記入しましょう。

とても関係がある 少し関係がある あまり関係がない 全く関係がない

理由

{		}
---	--	---

くふうしよう みんなの快適

調査しよう！みんなが住んでいる地域って？

お家の人や地域の人にインタビューして聞いてみよう。地域で決まられているルールや、地域で行われている行事、地域で守らないといけないマナーなど地域に関する内容を調べてね。

みんなはどのくらい地域のことが分かるかな？

インタビューした人

インタビューした内容

インタビューした人

インタビューした内容

()との関わりを知り、自分にできることを考えよう



✪地域にはどんな人がいて、どんな生活をしているかな。

人 (例 わたし)	生活 (例 学校に通う、公園で友達と遊ぶ)

⇒ _____ がいる

✪地域の人と協力して支え合っていくためにどんなことをしているかな。

✪快適な生活を送るために自分にできることは何かあるかな。

✪学習を振り返り、分かったこと、気付いたこと、考えたことを書こう。



() と (

) との関わりについて考えよう

2、家庭や地域での生活音について考えよう。

(1) 音を出す立場として気をつけることを書こう。



<気をつけること>

(2) 音が気にならないのはなぜだろう。思っていることと理由を書こう。



<理由>

うるさいなあ



3、これまでの自分の生活や関わり方をふり返り、共に快適に生活するために生かすことを書こう。

Large dashed-line box for writing answers to question 3.